

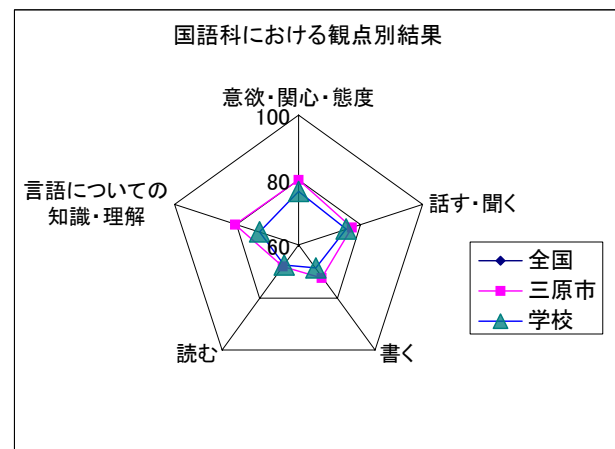
平成21年度 課題

- ①漢字の読みと書き
- ②目的に応じて目的を大きくまとめて読む
- ③段落相互の関係を考える

平成21年度の課題を受けて
具体的に取り組んだ事項

- ①日記、作文指導で文章表現力をつけるよう取り組んだ。
- ②漢字書き取りの宿題を毎日出し、こまめに小テストを行なう。
- ③授業の中で、接続語や指示語に着目をさせて、与えられた条件の整理の仕方の練習をした。

標準学力調査通過率 学校平均 71.7% 三原市平均 76.2% 全国平均 73.5%



	平成21年度	差	平成22年度	差	全国
平均通過率	74.8%	-3.1	71.7%		%
国語への関心・意欲・態度	82.9%	-6.3	76.6%		%
話す・聞く能力	86.8%	-11.4	75.4%		%
書く能力	77.4%	-8.5	68.9%		%
読む能力	75.1%	-7.4	67.7%		%
言語についての知識・技能	70.4%	2.1	72.5%		%
80%以上通過率	7人		5.2人		
80%未満～30%以上	5.6人		7.8人		
30%未満	1人		0.8人		

平成22年度 重点課題

- ◎「言語事項」
 - ・修飾語、接続語の理解
一文に順説と逆接の含まれた内容を、接続語を用いて3文で表す。
 - ・漢字の意味成り立ちの定着
「鳴」二つの意味を組み合わせた成り立ち
- ◎「読むこと」
 - ・パンフレットの内容を読み取り、情報を伝える。
 - ・文章の中心になる事柄をとらえて、段落の関係をつかむ
 - ・事象と感想、意見の関係を押さえて読むこと
説明文の中で「洋服のボタン」について書かれていることに、最も近い例＝自動販売機の効果の投入口が読み取れない。

【検証の方法と指標】

- 単元末テスト、学期末テストの平均通過率85%にする。
- 家庭学習での音読練習を100%やりきる。(音読カード等、点検を確実にする)
- 活用力問題(校内判)の作成をし、個人の記録を残し、課題を把握していく。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ①家庭学習の内容を見直しやり切らせることと、家庭との連携(家庭学習の徹底)
- ②ノート指導の徹底、説明、振り返りを自分の言葉で詳しく書く。
 - ・文章の読み取りの手立てとして必要な、用語をしっかりと教える。
 - ・ノート作り、振り返りにより、自分の考えをじっくり考える。
 - ・説明したり、発表することで表現力をつけていく。
- ③授業スタイルの確立〔1時間ごとのねらいの掲げる・個人志向～全体での練り合いの場の設定・振り返りによる評価規準達成の評価と自己評価〕
- ④毎日の漢字指導、正確に正しいにきちんと書かせ、点検をしていく。言語の基礎力をしっかり見につける。

来年度の目標値

- 平均通過率を今年度よりも5ポイント上げる。
- 通過率30%未満の児童の割合を0にする。

標準学力調査通過率 学校平均 76.5% 三原市平均 80.6% 全国平均78.2%

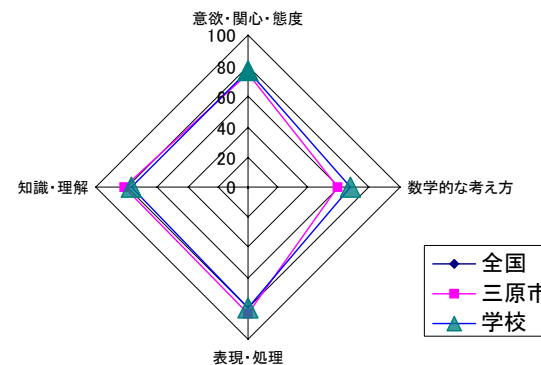
平成21年度 課題

- ①「数と計算」
- ・100までの数の系列の理解
 - ・あまりのある割り算（2桁÷2桁）
 - ・加法と減法を含む文章題の図示の理解
- ②「数量関係」
- ・分数、整数の大きさを比べる
 - ・1ℓ=1000mlを理解し、身近にあるものの容量を推察し、適切な単位を使う。

平成21年度の課題を受けて具体的に取り組んだ事項

- ①帯タイム「チャレンジタイム」を使い、百マス計算等、基礎的な計算の練習をしていた。
- ②量と測定において、類似問題で繰り返し指導にあたった。
- ③小数の割り算等で、見積もり、概数を繰り返しドリルを行なった。

算数科における観点別結果



平成22年度 重点課題

- ◎「数量関係」
- ・与えられた表のデータから、割合を求める。（図書室での本の貸し出し数の割合を求める）
- ◎「図形」
- ・正方形の紙を3回折って、一边を切った形が正八角形になると言うことが分かる。
 - ・直方体の面、辺、頂点の位置と数についての理解。
 - ・三角形の内角の和が180度であることを理解し、1つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める。

検証の方法と指標

- 単元末テスト、学期末テストの平均通過率を85%にする。
- 家庭学習の計算練習100%にする。
- 活用力問題（校内判）の作成をし、個人の記録を残し、課題を把握していく。

来年度の目標値

- 平均通過率を今年度よりも5ポイント上げる。
- 通過率30%未満の児童の割合を0にする。

	平成21年度	差	平成22年度	差	全国
平均通過率	81.3%	-4.8	76.5%		%
関心・意欲・態度	72.2%	-1.4	70.8%		%
数学的な考え方	73.8%	-6.5	67.3%		%
表現・処理(技能)	82.1%	-2.3	79.8%		%
知識・理解	77.7%	-1.2	76.6%		%
80%以上通過率	8.6人		6人		
80%未満～30%以上	4.6人		7.4人		
30%未満	0.4人		0.4人		

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

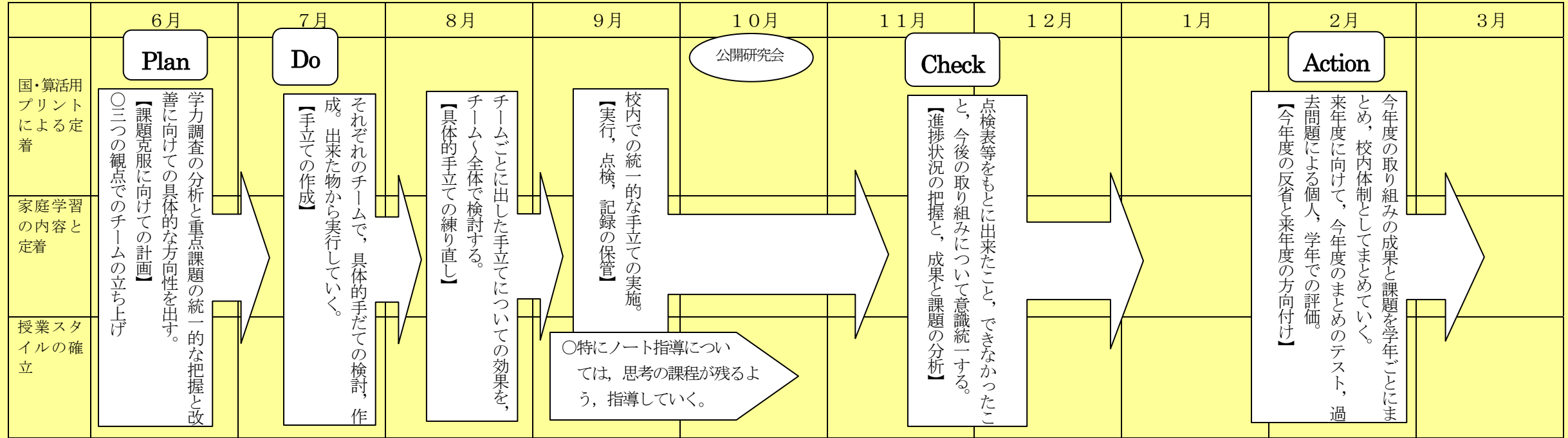
- ①家庭学習が定着していない児童の通過率に課題があるので、家庭との連携を図り、確実にやらせ切ることをしていく。
- ②ドリル学習での計算の繰り返しだけではなく、「数量関係」の領域単元での練習をし、しっかり身につける。
- ③「図形」の領域では具体的操作を仕組み、問題解決の根拠をじっくり考え、内容をノートにまとめ意見を表現できるようにしていく。
- ④授業スタイルの確立〔1時間ごとのねらいの掲げる・個人志向～全体での練り合いの場の設定・振り返りによる評価規準達成の評価と自己評価〕

取組みを進めるための計画

分析

いつ	6月中	研修形態	全職員夏季休業中	リーダー	教務主任
----	-----	------	----------	------	------

進捗状況把握の方法



進捗状況の把握

いつまでに	11月中	どのような方法	それぞれの取組みの指標、点検表の検討
-------	------	---------	--------------------

検証結果

- ローマ字の通過率が低く、特に、「tabemono」の読みより、書き「hinata」の通過率が悪い。
- 文章を読み取り、情景を想像することができていない。
- ◎3つの目覚まし時計を【資料】【決めたこと】の条件にあてはめて、選んだ理由を80字以内にまとめることができていない。

- $80 - 30 \div 5$ の四則混合の計算の通過率が低い。
- 例にならって、伴って変わる数量を求める計算ができていない。
- ◎本立ての見取り図からあまりが出ないように横の2枚の板の取り方を、辺の長さと言葉で説明することができていない。
(○基礎・基本定着状況調査, ◎全国学力・学習状況調査)

- 基礎的、基本的な内容の定着が十分であるといえない。
- 文章を的確に読みとり、自分の考えの根拠を簡潔に表現することに課題がある。
- 全体的に見ると、図形・数量関係の領域の通過率が低い。
- 生活アンケートから、テレビ、ゲームの時間が長く、就寝時間にばらつきがある。
- 家庭での学習習慣が定着していない。また、学習時間が短い。
- 無回答の問題の人数の割合が多い。

成果と課題

- 本校児童の定着が不十分な領域が把握でき、課題を職員で共有できた。
- 研究課題「論理的思考力を培う授業の創造」は文章の読み取りや筋道立て考えることに課題がある本校の実態に合うものである。
- 考える活動の設定を研究の手立てにして、授業研究を各自3回行い、それにあわせて模擬授業も3回行い、発問、思考させる場面等、職員で研修し共通理解をして授業研究に臨んだ。

- 昨年度の改善計画の効果が十分に活かされず、ポイントの引き上げができなかった。
- 学力調査の後半の問題の無回答率が高いことは、時間不足が考えられ、類似のテスト、問題数に対しての練習量が不足していた。
- 昨年度の結果から課題のある各領域、問題の傾向に対して徹底した繰り返し練習と、教職員の課題意識が不足していた。
- 現在、基礎力、活用力を身に付けるためのドリル学習に全学年で取り組み、3学期には学力調査類似問題を検証資料として検定テストを行う。
- 検定テストの結果をもとに、さらに弱点の克服にむけて組織として徹底した指導をしていく。
- 家庭学習の充実のため、保護者の協力を得ることと、確実な点検に取り組んでいる。
- 学力定着に課題がある児童に対しての、個別指導を毎日放課後行っている。